



青木 正彦 議員

問 高齢者の実情把握、見守り、支援体制は 答 町としてしっかりと取り組んでいく

問 老人福祉法第5条は、老人福祉措置の実施者を市町村とし、その業務として①老人福祉に関する必要な情報の把握、②老人福祉に関する必要な情報の提供と相談、必要な調査と指導を行うことを定めています。五霞町の高齢者の実態をどのように把握されていますか。

町長 昨年度、火災報知器の設置にともない75歳以上の一人暮らし世帯及び高齢者だけの世帯の状況については把握しています。しかし、全体の実態把握となると、これだけで十分でないと思っています。

健康福祉課長 火災報知器の設置では、対象者は92世帯で、このうち65世帯に設置しました。しかし、対象者を65歳以上に引き下げた場合は把握が難しく、毎年の総合検診で65歳以上の生活機能評価を行っています。回収率は67%で3人に1人は把握できない状況です。この事業は生活機能の低下に不安がある高齢者を把握し、身体機能を改善するための介護予防サービス等につなげていくものです。

問 「五霞町第5次総合計画」によると、平成20年4月現在の高齢数は人口比20・4%（1,997人）で、これが平成26年には25・8%に進むと書いています。そういう中で、老人クラブ会員数は413名にまで減少し続けており、生きがいを感じている人は44・0%というふうに出ています。一人暮らしや付きあいが乏しいなど、社会的に孤立状態にある高齢者が増えている状況の把握と

もに見守りと支援対策が急がれます。また、地域住民が支えあう取り組みとして行政組合の役割も大切です。これらの対策についてお尋ねします。

町長 高齢者の社会的な孤立状況は、地域とのつながりの希薄化も大きな要因だと思えますので、皆さんの知恵も出していただき町としてしっかりと取り組んでいきたいと考えます。行政組合への未加入者が全世帯数の3分の1ということで、町と

問 幸手市とつなぐ道路の進捗状況は

答 バイパスは平成27年開通を予定

問 五霞町と幸手市をつなぐバイパス道路の整備について、埼玉県側は、県境の中川と下吉羽幸手線（幸手警察署前の通り）の区間の用地買収を先行し、優先的に開通させる方針であると同っています。町の認識と対応は

町長 埼玉県側は中川に架かる新橋すり付け部分からの用地買収を先行し、新橋及び道路の詳細設計

は今年中に完成する予定であり、中川から下吉羽幸手線までの区間を平成27年度開通を目標として推進していると同っています。今後、茨城県側との調整、予算措置、用地買収にかかわる合意形成等の問題もあります。早期完成を目指し、両県知事への事業促進要望を強化していきたいと考えて

問 幸手境線の上舟渡橋の安全性が非常に心配です。危険性を承知しながら放置しないよう、所管の機関にきびしく正していく必要があると思います。同時に、中川河川改修における橋の付け替え計画を強く要望すべきであると思います。いかが

しての大きな課題になっています。この問題を含めた検討委員会を年内に立ち上げる予定です。

健康福祉課長 一人暮らしの方等への見守りでは、民生委員が中心的役割をもち医療、保健、福祉関係や近隣ボランティアが一体となつて支援する地域ケアシステム推進事業があり、現在116の見守りチームが訪問活動等を行っています。この他、災害時要支援者も140名登録されています。ま

た、地域包括支援センターは介護、福祉、医療等の面で高齢者を支えるもので、3名の専門職員をおき社協と連携し活動しています。総合健診による介護予防事業のほか、高齢者の介護、福祉、保険医療に関する悩み相談に応じていますが、相談実人数は78名、のべ950件です。今後、これらの体制強化を図っていく予定です。

ですか。

町長 この橋は築50年余ですから、耐用年数、老朽化による安全性の問題は十分認識しています。埼玉県の所管機関に確認したところ、平成17年の詳細点検の結果をふまえて平成20年に補修を行ったとのことです。橋の付け替えについては、バイパスの進捗並びに中川河川改修計画を勘案した上で方針を決定していくとのこと。今後、バイパスの新橋設置と並行して進められるよう要望していきたいと考えています。